

# 第5回品川区文化芸術・スポーツ振興ビジョン策定委員会

## 議事概要

日時：平成21年9月29日 17:00～19:00

場所：品川区役所第2庁舎252・253会議室

### 議事次第

#### 1 開会

#### 2 委員長挨拶

##### 委員長

- ・今日は、パブリックコメントを目前に控えて、ビジョンそのものを検討する大事な会なので、よろしくお願ひしたい。

#### 3 文化芸術・スポーツ振興ビジョン素案（案）について

##### 委員長

- ・前回、皆様から意見をいただき事務局で文章化を進めた。素案という形で全体像ができたので本日はこれを検討していただく。
- ・素案そのものと、ビジョンの中で非常に重要な、目指す区の姿については、キャッチフレーズなどもここでご意見をいただひて検討していきたい。
- ・今日の議論を踏まえ修正したものをパブリックコメントにかける。区民の方からのご意見を踏まえて修正したものを皆様にご検討いただき、さらにご意見をいただひて、最終回の1月の委員会で区長に答申することとなる。
- ・配布の第4回議事概要について、お気づきの点は事務局まで知らせてほしい。

##### 事務局 ビジョン骨子案について、資料に基づき事務局より説明

##### 委員長

- ・（第1章の）ビジョン策定の背景として、世界人権宣言や国の文化芸術振興基本法、スポーツ振興基本計画などを加え、単に区の行政計画の各論ではなく、もっと大きな背景があることが前回の骨子に加わっている。
- ・第4章は、8ページにあるように図示し整理をしている。目標1、2、3のワンセットで、区民が地域のさまざまな資源を活かし、良い機会・場を作って、今やっている人も、やっていないけれど潜在的にやりたいと思っている人たちも、文化芸術やスポーツの活動ができるようになることを実現しよう、とまとめている。
- ・目標4、5は、伝統文化と将来を支える次世代ということで、時間軸で、中・長期的な視点で、過去の伝統を伝承していくことと、将来を見据えて先行投資をしていくことを

表している。

- ・目標 1、2、3 と 4、5 ができれば、文化芸術あるいはスポーツの振興は完結するが、今回の検討は、それをまちづくりのにぎわいにつなげていくところまでを考えていこうというものなので、個別の活動、区民一人一人の活動が活発になる、続いていくだけでは少し物足りない。そこで、その先の目標として、6 と 7 を掲げた。目標 1、2、3 で実現した区民一人一人、あるいは区内の文化芸術・スポーツ活動が活発になり、それがバラバラに存在するのではなく、音楽、演劇、サッカーの活動などいろいろな活動がともにつながり、連携することでシナジー効果を上げていくことを目指している。
- ・目標 3 と目標 6 に、同じ「資源」という言葉が出ているが、目標 3 の「資源」は、いま活動しようとしている区民あるいは団体が、何かをするときの場を作るために、区内のいろいろな資源を集めていい場を作りましょう、というところ。その結果、生み出された文化芸術やスポーツの活動、ある意味、創造物、生産物同士を結びつけていこう、それがまた次のまちづくりにとっての資源になるという形で結び付けていこうというのが、目標 6 になる。目標 3 は、区民が活動するための場をつくるために（資源を）集めていく、目標 6 は、その結果生み出されたものを相互に集めることで、より大きなシナジーを發揮しよう、ということ。
- ・文化芸術、スポーツ活動それぞれが活発になり、結びつくことで、いいにぎわいになるが、さらに目標 7 では、文化芸術やスポーツに関わっていない人たち（例えば商業分野など）、文化芸術・スポーツ以外の領域との連携を図って、まちづくり全体のにぎわいにつなげていこう、と整理されている。
- ・以上、まず目標 1、2、3 で個別の活動を活発にし、目標 4、5 で長期的な時間軸で担保し、目標 6 でそれぞれ活発になった活動をお互いにつないでいこう、目標 7 で文化芸術・スポーツ以外のものともつなげることで、まちづくり全体のものにしていこうという流れで、ストーリーを整理している。
- ・この素案と、第 3 章の「将来のまちの姿」に入れるキャッチフレーズについて意見をいただきたい。

#### **委員**

- ・第 3 章、理念 1 「人をつなぐ」について。「交流や協働により」という言葉はあるが、福祉という観点から見て、もう少し「人間としての交流、触れ合い」というものを入れるとより品川区らしい理念になるのでは。それぞれの立場や置かれている状況を理解するというニュアンス、「相互理解」のようなキーワードを入るとよい。

#### **委員長**

- ・性別、年齢、障がいに加えて、国籍、民族、宗教なども考慮すると、多文化共生のような感じのキーワードとも結びついてくる。

#### **委員**

- ・この案（理念 1）では、一人一人が勝手に楽しむというようにも取れる。やはり人は、

付き合い、関わり合いの中で喜びを見出す動物だと思うので相互理解や福祉ということも入れると、より品川らしい。

## 委員

- ・第1章の1背景について。区や行政の背景だけではなく、文化芸術・スポーツに参加したいという区民要望の期待の高まりも位置づけるべきでは。アンケートの結果を見ても、文化を大事にする区民の姿がよくわかり、この策定委員会でも多く語られてきた。ビジョン策定の背景に文化芸術・スポーツへの区民要望の高まり、策定委員会の主体性を背景や位置づけに記すべきかと思う。
- ・このビジョンに欠けている点が3点ある。
  - 1点目は、施設の整備拡充のビジョン。活動団体アンケートを見ても、多くの参加者を迎えたいという思いはよく感じられるが、それがなぜかなわないのかということ、一番の問題は活動の場が取れないこと。活動の場所がほしいというのは、このアンケートからも明らか。活動場所の確保は、団体とか区民の努力でする運営の改善というよりも、施設整備そのものを進める方向がなければビジョンにならないのでは。そこにこそ、区の役割があると思う。少年野球などのスポーツにしても、演劇の練習にしても、活動場所を増やす必要性があること、施設整備の充実が必要なこと、その方向性をビジョンとしてしっかり掲げるべき。
  - 2点目は、第3章理念1「人をつなぐ」のところで、「誰もが、どこでも」という文言だと、経済的に厳しい方（所得の少ない方）にとっての文化芸術・スポーツへの参加をどう図っていくのかという点が欠けている。例えば品川区主催の、都はるみのコンサートがきゅりあんで行われて、通常価格よりも安いとはいえ、4,000円だと聞いている。年金暮らし、の高齢者にとって敷居が高いというのが庶民感覚だと思う。
  - 高齢者、生活が厳しい人にとっても文化や音楽を楽しんで人生を豊かにするという思いであれば、しっかりと参加できる枠を設けるとか、席を設けるとか、そういう機会を保障するという、視点が必要なというふうに感じた。
  - 3点目は、若い人やサラリーマンなど働いている区民の方へのビジョンがなかなか見えてこない。どんなにユニークな企画や魅力ある参加しやすい企画があっても、長時間労働、過労死、ワーキングプア、ネットカフェ難民、という状況を黙認では参加も振興もあり得ないし、これではビジョンが描けないと思う。今の働いている厳しい実態はあるけれども、社会的な規制か労働時間の短縮か、といった課題や方向性をしっかり示していく必要がある。

## 委員長

- ・ご指摘いただいた区民の視点で言うと、確かにそこから書き起こす形にはなっていない。ただ、文化芸術まちづくり条例ができたことや議員提案ができたということは、区民からの盛り上がりがあったのことだから、そこから書き起こして入れていくと、流れとしてはいいと思う。

- ・3点ご指摘いただいたところでは、施設整備のことは、第4章で基本的には、この目標3に該当してくる。体制としては、区の役割、財団、スポーツ協会の役割に入ってくると思うが、事務局を含めて議論した際は、品川区は新規の施設をどんどん建設するということが推奨される段階ではもうないという認識があって、既存の施設をもっとうまく使えるようにすることのほうが大事という印象を持っている。

#### **事務局**

- ・施設の関係では、非常に環境的には厳しい面がある。施設の整備は、行政がお金を出すということだけではないと考えている。例えば連携することでいろいろ活動が広がってくるとか、さまざまなやり方がある。目標3のところに施設整備に関して記載している。いろいろな区民からの要望というご指摘についても、現状と課題に、意識調査の結果やほかの目標のところ、なかなか参加できない制約がある方についての記載も入れているので、そういった面も踏まえて、表現の仕方は委員長と相談させていただきたい。

#### **委員長**

- ・この23区内の品川区ということで、大型のホールや劇場、あるいは美術館を作ることではない。日常の活動に使う練習場、あるいは小さな展示スペースのようなものが必要ということで、行政が新たに施設を作るというよりは、既存の空きスペースをうまく使えるようにするとか、学校の統廃合で学校跡地、建物の利活用とか、スペースの使い方の工夫として、機会を作るところの工夫をもう少し具体例を入れていくのがよい。

#### **事務局**

- ・全体のビジョンとして、具体的な計画についてどこまで記載するかのもあり、長期基本計画などには新しい文化施設の整備とか、計画も盛り込んでいるので、ビジョンとの役割分担を踏まえた形での表現がふさわしいのではないかと考えている。

#### **委員長**

- ・大きな箱モノ建設の計画はあるか。

#### **事務局**

- ・五反田文化センターの改修、音楽ホール等を備えた形での改修、八潮南小学校跡の施設改修、新しい施設としては平塚小学校跡の文化施設の計画がある。これらの施設計画については、長期基本計画の中の都市像実現プロジェクトとして記載されている。

#### **委員**

- ・施設の整備のことを入れると、限界や制約もあるので、与えられた条件の中でそれをどううまく活用するかという工夫を考えるべきである。
- ・先ほどの都はるみのコンサートの金額が高い安いという問題も、無料にしたらいいかと言うと、そういうわけにもいかない。同じようにおのずから限界があるわけで、現実の問題として受けとめなくてはならない部分は当然ある。それを踏まえて、どう考えていくかというディスカッションを進めていったほうがよい。

#### **委員長**

- ・経済弱者の話は重要な問題であり、目標1のところでも既に活動している人たちだけでなく、意欲がありながらさまざまな制約があって活動できない人も参加できるような仕組みづくりという内容で書き込んである。そのさまざまな制約は、身体的なこと、家族に要介護の人がいること、経済的理由ということもある。また、お金はあっても、とにかく忙しくて時間もなく、疲れ果てているというビジネスマンもいる。施策のところでは、そのような人が含まれることを入れていくほうが多くの区民にとって、自分たちのことも配慮されているという印象を得るのかとも思う。
- ・あまり細かい施策まで書き込むことはできないので、施策の方向性のところで匂わすように入れる。経済的弱者の話については、これまで自治体は低料金にすれば多くの人に開いているという説明をしてきたが、低料金のコンサートや展覧会に来ている人は、実は高所得の人ばかりだったりする。
- ・本当はただでも来られない人に配慮するという政策やプログラムのあり方自体を今後検討していく段階に来ているとは思う。このビジョンの中には細かいところまでは書き切れないにしても、そういう人にも配慮するということをきちんと目標として書き込んでおくことで、次の具体的な計画では実現に向かって進むと思う。
- ・勤労者へのビジョンは、どのように書き込むか、今直ちにこうしたらいいというのが浮かばないが、例えば、区民一人一人と言うとき、働いている人という言葉も少し明示的に入れていくことも考えられる。
- ・目標1で、インタビュー調査でも、区内の企業吹奏楽団の話も聞いており、昼間区民の方々の文化活動も少し入れてもよいのでは。多分スポーツでも同様な方たちが活動されているので、そこは工夫してみたい。

#### **委員**

- ・今の区民の件で、たしか文化芸術まちづくり条例の中に、区民を勤労者、区内に勤務する人とうたっていないかったか。

#### **事務局**

- ・まちづくり条例、第2条に定義があり、「区民等」という形で、「区内に居住し、勤務し、または在学する者をいう」と定義している。

#### **委員**

- ・第1点として、現状と課題に載せるべきと思っていたのだが、品川区の中での文化芸術活動をどうするのか。例えば、自然が少ないとか、スペースが少ないという限られた環境の中で工夫をしていくんだ、というような。工夫して、いろいろな目標を設定しビジョンを作っていくステップがあると思う。
- ・2点目として、目標6に関連して、区民のため、あるいは区の中でという話にもなりがちであるが、全体的なニュアンスが気になっている。在住区民は、区の中で自分たちが発見していくのもさることながら、ほかの地域との交流とかほかのところと相まって伸びていったり、知っていったりというのが段階的にあると思う。

- ・地域の交流は、課題にもあったが、国際都市としての表玄関としての品川区とありながら、実は中に書かれていることが交流の場を作るとか考えているということが少し希薄かなという印象があるので、目標6あたりに、そういうこともビジョンとしてはとらえているんだという、外向きのオープンな話があってもいいのでは。
- ・それによって、伝統の文化も大切にしていきながら、新しい文化をこれから作っていきかなと思う。今まであったものをずっと援助していくのではなく、これからの時代を見ていくときには、中・長期的、経過的に、新しい文化も生み出していくという思いがあるということも、ビジョンとして考えるのかなと思う。
- ・そういう意味で新しい文化とは、例えば通信とか放送とかの技術とか、今後新しいものが、5年前、10年前には誰も思いつかなかったものが世の中に出てきて、それを使ってみんな生活しているというのも1つの生活文化だと思う。
- ・例えば、face to faceだけでなく、通信と放送の発展をもたらせたことによる新しい文化の創造とか醸成とかいうようなことも前向きにとらえていくというものが、ビジョンとしてあると元気が出るかなという気がした。

#### **委員長**

- ・生み出されたもの同士が結びついてシナジーを発揮する、それによってさらに新しいものを作るリソースになっていくというような思いはあったが、文章としては弱かったかもしれない。またさらに新しいものを作っていくというのは入れてもいいかもしれない。創造とかクリエイティブが1つのキーワードになっているということもある。
- ・他地域というのは確かにあまり明示的に書かれていなかったので、目標6か、7で入れたほうがいい。

#### **委員**

- ・施設整備のことでは、現状ではスポーツ団体・文化団体にしても、今現状では与えられたスペースしかないので、頑張って、また工夫もしている。一応ビジョンを作るなかで、どう具体的に落とし込むか、制約もある中で頑張る、それはそれで必要だが、こうありたい、というところはしっかり記述が必要と思う。
- ・グループアンケートを見ても、活動の場がないというのは、聞かなくてもわかるじゃないかというのがみんなの実感だと思う。区も今後五反田のほうを、できるだけ対応するなどという話があったが、太鼓の練習場などはいいい例で、昔だったら町中で練習してもあまりご近所に言われることがなかった。でも、今お祭りの太鼓1つ練習するにもなかなか合わなくなっている現状がある。その中で集会所などで練習せざるを得ない課題があった。それが今後は練習できる場所として拡大する方向性が出たわけだが、区が掲げているから、この策定委員会のビジョンとしては載せる必要はないという議論にはならないと思う。団体からそういう場所が必要だという声が強く出ているので、活動の場、発表の場というよりも練習の場が足りないと感じる。今後作っていく施設の中でも、練習の場としての利便性をどう高めていくのか。防音装置や床の厚さとかいろいろある

と思う。その点を考慮してビジョンを描くことが大事な視点と思う。

#### **委員長**

- ・私も現状認識は、練習の場が足りないことは多くの団体のご意見としてあって、それに対応するのがこの11ページの目標3「既存施設の有効活用などの環境整備も求められます」と理解している。
- ・成城に大きいホールができた、杉並公会堂ができた、区内だけ出なく、区外からも人を集めるような大型文化施設を作る状況ではないという意味で、あまりハード整備ということを書く必要はないという印象を持っている。むしろ、区内にあるハード資源を有効活用して、練習の場を確保するということかと思う。「日常の練習の場など」とか、何かそのような表現を加えることで考えたい。

#### **委員**

- ・全体的に私はこれでいいかと思う。あまり大きく表現すれば、このビジョンが達成できるかどうか分からない状況になる。この活動という理念の中に、それなりの団体の活動とか練習の場が出ているので、これをどのようにして整備していくかということがこれからの課題になる。スポーツにすれば、この今の小・中学校の施設をどのように活用していくか。品川、大崎の場合は総合型にして、その会場へ行けば何でもでき、スポーツもできるレイアウトにしていく必要があると思う。
- ・発表の場が品川は少ないと思うのでこれから整備して、平塚小学校もそういうホールができるのではないかと、ビジョンの中に含めて、区民でどんどんそういう話をすると、そういう施策の中で進めていったらいいと感じた。
- ・ビジョンづくりはこのままで終わるのか。素案ができ上がって、1月にもう答申を出すわけだが、このまま出したあと、もうそれで終わりだということではなく、せっかくスポーツ、芸術の団体が集まってこういうお話のできるということがあればいい。社会教育委員会でいろいろ区へ提示してきたことがあるが、これから広い意味でそういう提言ができるような場所があったらいいと思う。

#### **委員長**

- ・ビジョンを作って、作りっ放しというのが全国の自治体にいっぱいあるが、そうならないために第5章「実現に向けて」を入れた。書いても動かないこともあるので、最後の委員会のところあたりでしっかり区長に言ったうえで、ただし、区長にすべてやってくださいというの、文化・スポーツという分野にはなじまないところもあるので、推進体制については直ちにこう取り組んでいくみたいな記述が必要と思う。
- ・行政任せということではなく、市民の団体とか企業とかが動くといいと思う。

#### **山田副区長**

- ・15ページの目標7について、「品川区に住む人も働く人も」という記述があるが、「学ぶ人も」をぜひ入れてほしい。この後に続く、16ページの企業への期待というところも、やはり区内の教育機関、特に大学等を含めて非常に幅広く今、連携を取っているの、

民間というとらえ方をするともっと広がるかなと思う。

#### **委員**

- ・目標 6 に関連して、さまざまな団体などの協議をする場を作っていたきたい。同時にこの目標 6 の中で、区の行政の役割という点からすると文化振興事業団とかスポーツ協会がここに出てこないでいいのか。連携、協働という中にもう少し記述があってもいいのでは。
- ・目標 7 について、施策の方向性として 2 項目出ているが、少し物足りない気がする。8 ページの図に「品川の魅力を発信」という文言が出ている。こういう品川の魅力を、なにか施策の中にもう少し出せないか。文章中の「区外からも多くの人々が訪れたいというまちの実現」に何か結びつけられないか、ここの部分が「施策の方向性」に見えない気がする。
- ・全体の中で、注釈をつけてもらう関係で、アンダーラインが多い。このアンダーラインと注釈の関係がもう少し表示方法を工夫できないか。最初見た瞬間に違和感があったので、構成の段階で考えていただきたい。
- ・文章的に何か気になる点は後で個別に事務局とお話をさせていただきたい。

#### **委員長**

- ・確かに目標 7 のところはちょっと貧弱なのでここは一度考えたほうがいい。

#### **委員**

- ・注釈の部分 4 ページと 13 ページに「CSR 活動」という言葉が出てくるが、「CSR 活動」を抜いても普通に文章になると思う。あえてこの CSR 活動という文言を入れたのはどういう理由か。

#### **事務局**

- ・懇話会で企業の方ともお話をさせていただく機会があり、企業の社会貢献活動としてという考え方で活動しているというご意見をいただいた。CSR という言葉がいいのかについては整理したい。
- ・注釈の扱いについては、これはまだ素案の案という段階であり、この後、また修正を踏まえて最後、ビジョンとして冊子にする時にはデザイン等は考え、見ていただきやすいような形で整理したい。

#### **委員**

- ・「CSR 活動」を「企業の社会貢献活動」にしたほうがピンと来る。今、地域の団体でも社会貢献活動でさまざまなふれあいをしたりしているので、そこは「CSR 活動」と幅広く意味が取られてしまう。限定をするか、除くかどっちかにしたほうがよい。

#### **委員長**

- ・ただ「社会貢献活動」と言っていた時代から進んで、レスポンシビリティになっている。たしか明電舎さんも割と明確にお話になられていたので、ここは CSR であったほうがいいのかということもあるので、そこはまた検討させていただきたい。



## 委員

- ・イメージの問題、CSR活動というと企業がやっていることであって、そのCSR活動の一環となってしまうとか、何かステークホルダーというか、利益の部分が出てきてしまう。文章を見ても、別に「CSR活動の一環」を入れなくても普通に文章が成り立つと思う。社会貢献活動という言葉にすれば十分文章がつながる。CSR活動の部分だけが目立つというか、異色というか、言葉を変えたほうがいいと思う。

## 委員長

- ・CSR活動の文言については検討させていただきたい。
- ・キャッチフレーズについてはどうか。目立ちにくいところかもしれないが、一度決まると、それがずっと使われることになる。

## 委員

- ・キャッチフレーズ候補の中で、7番が私はいいと思う。「もっと輝け」はいらない。「感動と笑顔」は逆で、「笑顔と感動」かなと思う。あまり長いのはキャッチフレーズというわけにいかないのだからこれがいいと思う。

## 委員

- ・キャッチフレーズ、1から20まで事務局がたたき台を作ったとのことだが、この中に「文化芸術・スポーツ」の言葉は入っていない。あえて使わずに、文章の中からそれを思わせるような何かがあるのか。キャッチフレーズだから「文化・スポーツ」を入れると文章も長くなって、なかなかキャッチできない。「心豊かに暮らしに笑顔 にぎわい都市創造都市しながわ」だと、文章を読めば何となく結びついてくると思う。そういう意図があるのか。

## 事務局

- ・このキャッチフレーズ例は、きっかけとして準備した。この中からというわけではなく、全く新しい発想で考えていただきたい。委員がお話されたとおり、「文化芸術・スポーツ」の言葉を入れなくても、例えば暮らしという中で何とか読み取れるかなというような、議論もあった。そういった表現、「文化芸術・スポーツ」の言葉を入れない形で、委員の皆様から何かフィットするような新しい表現もいただけるようなきっかけになればと思って、こういう形で出させていただいた。

## 委員

- ・キャッチフレーズについては、ちゃんと議論しなきゃいけないと思う。例えば高齢者も若者も、また障がいのあるなしにかかわらず、経済的な問題も含めて、一言で言ってしまうと「みんな」になってしまうが、やはりみんなが参加できる文化、スポーツ、芸術、を享受できる、また自分とあなたと交流できる、立場の違いを超えて共感し合うというイメージが前面にあることが大事と思う。
- ・逆にそれがあから、その後の「つながる」もあるので、それが大事だから育てていくという視点にもつながると思う。キャッチフレーズとしてはファーストインパクト、導

入部分で大事になる。

- ・議論の中で、品川のまちなぎわいとか、まちづくりという問題がある。3ページの「歴史・伝統と新しい魅力が共存するまち・しながわ」「多様なまちの姿」とあるが、大崎駅前の近代的な建物について、私は異論があって、いわゆる日陰や風害の問題もあるが、箱モノとかコンクリートジャングルではないということがある。この再開発事業については、文化や芸術とは違うなというふうに思っている。

#### **山田副区長**

- ・キャッチフレーズ 20の中から選ばずに、自分で考えたのを 21 番ということで、「輝け品川 文化・スポーツの輪」にするか「ネットワーク」というふうにするか。要は文化・スポーツを土台にしながら、品川区全体を輝かせようというように提案したい。「輝け品川 文化・スポーツのネットワークから」

#### **委員長**

- ・「つながる」という言葉は必ず必要で、「にぎわい」というよりは「つながる」という言い方をするほうが多分しっくりくる。9番は内容的にはこういうことだと思うが、説明的でキャッチフレーズにはならないだろうと思う。11番は、豊島区のまねしたと言われるからやめたほうがいい。
- ・区長のご意見を伺って決めていくということですか。あまり考えずに感覚的に言ったほうがいいものが出るのではないかと思う。

#### **委員**

- ・キャッチフレーズ候補の 11 とか 13、14 に入っている「創造都市」という言葉は、「都市」というのがどうなのかなと感じる。「創造」という言葉が固く感じるのでどうなのかなと思う。
- ・「輝く」とか「輝け」とか結構入っているが、伝統の継承とこれから新しいものを入れてということで、「輝き続けるまち」とか、「続ける」という表現が必要と思った。

#### **委員**

- ・キャッチフレーズというのもいいが、言葉ではなかなか訴えるものがないのでデザインロゴがあるといいのでは。

#### **事務局**

- ・キャッチフレーズについていろいろご指摘いただいて、「輝き続けるまち」とか、それから「つなぐ」というような視点をいただいたので、こういう視点が入ったほうがいいというご意見をいただきたい。
- ・デザインロゴという話もいただいたが、委員長と調整させていただきたい。

#### **委員長**

- ・キャッチフレーズについては、今のご意見を踏まえて、この辺は盛り込んでという方向性を提示して、後は区長に選んでもらうという感じですすめたい。
- ・素案について議論するのは実質的に今日が最後なので、ぜひ意見交換をしておきたい。

- ・この後はパブリックコメントをかけ、個別に挙がってきた意見を修正したものを個別に委員の皆様にも意見をいただくという形になってくる。ここで一緒にディスカッションするチャンスは難しいので、引っかかるところなどあれば聞かせていただきたい。

#### **委員**

- ・CSR活動についての意見だが、最近企業のホームページでは、会社の沿革や企業理念と合わせて、CSR活動ページは結構多く存在する。実際、企業のバックヤードに入ると、CSR活動報告掲示板があり、一般的に地域のごみ拾いをやっていますなどの報告があり、CSRという言葉自体が働いている人は、聞けばわかるような感じになっている。このビジョンを見た時に、この「CSR活動」という言葉が入っていることで、何か一歩進んでいるような印象を受けた。やはり企業が地域に何が貢献できるのかということを示す上でも、この言葉はぜひ外してほしくない。

#### **委員**

- ・会社員だった時に、QC活動とか流行って社会的にムーブメントになっていた。でも、今は聞かない。この理念をどのくらい長きにわたって使うかによって、はやりの言葉を使うことによって、後で見て陳腐化してしまうというおそれがあるのかなと感じた。

#### **委員**

- ・この中で嫌いな言葉ではなく、「おせっかい」という言葉が3カ所出てくる。そのおせっかいの表現方法が3つとも違う。もう少し統一したほうがいい。この言葉を嫌がっているわけではなく、自分たちも本当はそう思うし、自分もよく使う。品川はおせっかいな人間が多い、そういう表現はすごく意味がわかるが、3つの部分が、統一感がないような感じがしたので、後でうまく修正できれば。

#### **委員**

- ・この「おせっかい」の言葉については言い当てているなという感じがすると、こう繰り返されると、うーんという感じもして、逆に人から言われると、反発を感じる。繰り返されると、何か嫌な感じもする。使い方の問題なのかもしれない。

#### **委員長**

- ・このおせっかいというのは、広い意味での品川の持っている文化、ソーシャルキャピタルという言い方をしてもよいが、そういうものでぜひ入れたいと検討していたけど、確かに繰り返すというのはあるのかもしれない。

#### **委員**

- ・繰り返すことによってこの「おせっかい」という文言が印象に残るのであって、品川の、住商工が混在して、下町である品川ということから、「おせっかい」という言葉は極めて重要なキーワードであるので、これはやはり3回、しつこいようでも5回でも6回でも使ったほうがいいと思う。

#### **委員**

- ・(品川区で「おせっかい」は)ほぼえましい意味である。品川人はそういう受け止めをす

と思うので、そんなに心配することはない。

#### **委員**

- ・キャッチフレーズに「おせっかい」というのもなかなかいいのではという気がする。品川人イコール、やっぱりおせっかいという、まさに23区の中でも極めて品川区の特徴をあらわす言葉だと思うので、むしろ、キャッチフレーズに使ってもいい。

#### **委員長**

- ・肯定的な意見もあり、パブリックコメントをかけてみて、区民からどんな反応があるのか見てみるというのでもいいかもしれない。

#### **委員**

- ・一般的にはネガティブな言葉だが、これをポジティブに持っていくのがすごい。

#### **委員**

- ・もしかしたら解説が必要かもしれない。親切心だったり、お世話好きだったり、おそらくそういう意味でここでは何となく一致している気はするが、ビジョンをパブリックコメントにかける前に、おせっかいのイメージを言葉化、具現化しないと、区民の中にも受け止め方が分かれると思う。長く住んでいる人と（そうでない人ともいるので）イメージを解説するのも大事かと思う。

#### **委員**

- ・おせっかいの件で最初に言ったのはその言葉を使うなということではなく、文章に3カ所出てくるのを読むと、最初に「人情に厚くいい意味でのおせっかい」という言葉がまず出ている。その後出てくるのは「地域の輪であるおせっかい」という、ニュアンスの違いが出てきてしまう。最後は「品川らしいいい意味でのおせっかい」という、言葉として統一性があるのもいいという意味で指摘をした。

#### **山田副区長**

- ・おせっかいは品川区にとって非常に大事なことだと思う。ふれあいサポート活動であるとか、学校の関係の運動であるとか、いわゆる人と人に対するの関心が強くて、ひとつ一歩出てその安全を守るとか、福祉のところの相互扶助であるとか、言ってみれば自助・共助のまさに共助のところ、協働関係のところをこのおせっかいという言葉の中に凝縮してあるというのが、こちらの解釈である。ただ、読み手によって、そこまで読んでいただけるかどうかというのはあるので、触れ方については後ほど工夫をしたらどうか。

#### **委員**

- ・目標7の施策の方向性が弱いのではないかという意見について、方向性が2つしかないなので、1つ増やして、区外からも訪ねてくるような魅力を持ったまちとしての何か施策を入れられたらと思う。表現等は事務局で検討していただきたい。

#### **委員長**

- ・そこは、15ページに書き加えるという形で検討する。

#### **委員**

- ・10ページ「いつでも、どこでも、誰もが、いつまでも」スポーツに親しめるまちという話が以前出ていたが、「誰でも」までは入っているが、「いつまでも」が入っていない。「いつまでも」というキーワードを反映できたらいい。

#### **委員**

- ・12ページ下のところ、「品川歴史館の展示」と、急に品川歴史館が出てきている。前段には「歴史館」という言葉が出てきていない中に、ここだけ出てくるので、これを読んだ方に理解してもらえるのか気になる。

#### **委員長**

- ・ここと、きゅりあんも固有名詞が出ている。

#### **事務局**

- ・きゅりあんとか、歴史館の果たす役割というのを考えて表現したが、表現の仕方については調整をさせていただいて、唐突だというようなご意見をいただいたので、それを踏まえて修正を図りたい。

#### **委員長**

- ・今日の意見を踏まえビジョン案を再度修正して、パブリックコメントにかける。11月11日号の広報紙（区報）で概要を出し、全文はホームページで公開するという形で、パブリックコメントにかける。それで意見が集まってくるということをぜひ期待したい。品川区はいつもたくさん意見が寄せられるのか。

#### **事務局**

- ・基本構想等、ほかの個別な計画についての意見は寄せられており、今回もたくさんのご意見をいただけることを期待している。

#### **山田副区長**

- ・長期計画の時は割と多かったというイメージはあるが、ほかのパブリックコメントの時は5件だったり8件だったりのこともあった。11月11日の広報に載せる時、単なる概要だとどうしても文字が並ぶだけになり伝わってこないと思うので、ぜひ工夫して伝えるようお願いしたい。

#### **委員長**

- ・寄せられた意見をもとに、事務局と私と副委員長も加わり、パブリックコメントを踏まえた修正案を作り、委員の皆様にも年末年始のころにお送りする。委員の皆様から再度ご意見をいただき、それをもとに修正案を作って、それをもって第6回委員会で区長に答申をするというスケジュールになる。

## **6 次回日程等について**

- ・次回の日程は未確定（1月下旬予定）。できるだけ速やかに確定をさせて連絡する。

## **7 閉会**

以上